

# 南安曇地区地下水位集計解析報告書

平成 18 年 3 月

南安曇郡水資源対策協議会

## はじめに

私たちが暮らす安曇野は、古くから良質かつ豊富な地下水に恵まれた地域であり、県内でも有数の農業地帯で、見事な景観を形成する水田での稲作や、特産品であるわさび栽培、ニジマス等の淡水魚の養殖などが盛んです。

今から 23 年前の昭和 58 年 6 月、自然に恵まれた安曇野も、気象状況の変化や、農業用水、工業用水、上水道などによる地下水利用の増加、更には河川状況、農業情勢の変化などにより、地下水資源は徐々に減少しつつあると言われる中、自然環境を守り育てながら、各種産業のバランスの取れた発展を目指す為には、総合的な水利用計画の樹立が緊急の課題であり、その為には、郡下の地下水及び表流水の現状と将来性について、科学的・学術的な調査を実施し、総合的な水資源の供給体制の確立をはかる必要があるとして、旧南安曇郡の関係者にて「南安曇郡水資源総合調査事業促進協議会」を設立し、各方面に調査のお願いを致しました。

幸いな事に現在の経済産業省(旧通商産業省)により、「地下水利用適正化調査 安曇野地区」として深層地下水を対象とした 4 本の観測井を掘削し、昭和 60 年 3 月から平成 2 年 3 月まで、井戸の枯渇及び地下水の低下を未然に防止するとともに、産業の発展を目的とした地下水利用の管理体制を確立する為の基礎資料を得ることを目的とした、地下水利用適正化調査が実施されました。

また、農林水産省でも、「農業用地下水調査 保全涵養調査松本盆地北部地区」という名称で、昭和 59 年度から昭和 63 年までの 5 年間、今後の地下水利用の適切な指針を立てる基礎資料を得ることを目的に、既存井戸の実態調査や、新たに掘削した浅井戸の地下水位の継続調査等を行っていただきました。

このような地下水位の観測調査は、地下水保全の立場においても大切であり、継続して調査研究する必要性があるとして平成 2 年 2 月、それまでの調査事業促進協議会を発展させた、「南安曇郡水資源対策協議会」が設立され、新たに堀金烏川の深井戸も加えながら、今日まで調査研究を行って参りました。

この度、市町村合併に伴う松本市及び安曇野市の誕生により、更なる両市の協力・連携関係を継続的に維持する中で、「南安曇郡水資源対策協議会」を発展的に解散し、新たに「安曇野市水資源対策協議会」として発足するのに合わせ、これまでの調査内容を「南安曇地区地下水位集計解析報告書」としてまとめさせていただきました。

これまでの調査の間にも、安曇野を取り巻く自然環境や社会的、経済的状況は変化し、水を取り巻く環境もゆっくりと変わってきました。降水量の少なかった昭和 63 年 2 月から 3 月や、平成 18 年 1 月から 3 月には、「憩いの池」周辺での湧水が枯渇する現象も発生しました。

今後、私たちには、安曇野の豊かな自然環境を守り育て、各種産業とのバランスの取れた地域づくりが求められており、その為にも更に総合的な水文調査や研究を進めながら、

地下水資源の適正な利用を促進し、保全のあり方を探ることが極めて重要と思われま

協議会としましても、地下水や湧水等の水環境・水資源を、より良い状態で次世代に引き継ぐことが出来ますよう努力して参りたいと存じます。

なお、長年にわたり、当協議会の活動に御協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、今後益々の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 18 年 3 月

南安曇郡水資源対策協議会

会長 平林 伊三郎

## 目 次

第1章 調査の概要	
1.1 調査目的	1
1.2 調査地域と調査の概要	1
1.3 松本盆地の地形・地質概要	3
1.4 気候	8
第2章 地下水位観測井	
2.1 調査経緯	13
2.2 観測井概要	13
2.3 観測施設	21
第3章 地下水位観測結果	
3.1 観測結果概要	22
3.2 1号観測井	23
3.3 2号観測井	27
3.4 3号観測井	31
3.5 4号観測井	35
3.6 堀金観測井	39
3.7 地域比較	43
3.8 湧水	48
第4章 総括と課題	
4.1 調査の総括	50
4.2 今後の課題	50
参考文献	51
巻末資料	
日別経年観測記録図	52
日別地下水位年表	62
年間降水量一覧表	90